

瀬底島の植生の概況

日 越 国 昭
(沖縄県立博物館)

A Preliminary Study on the Vegetation of Sesoko Island, the Okinawa Islands
Kuniaki HIGOSHI
(Okinawa Prefectural Museum)

はじめに

本部町瀬底島は、沖縄島北部本部半島の西約600mに浮かぶ、面積3.46km²、世帯数314世帯、人口1,047人の小島である。同島は対岸の同町健堅との間に1985年に瀬底大橋が架けられ、日帰りの観光客が多くなってきた。また、圃場整備が進行し、リゾートホテルの計画もあるといわれている。今後、人や物の流通が大きくなるとともに、帰化動植物が増え、島の人文・自然的環境が大きく変わってくると思われる。

この報告は、昭和62年度沖縄県立博物館の瀬底島総合調査の一環として、1988年2月22日から3月14日にかけて、同島の砂浜・岩礁海岸および内陸部の自然林に42個の調査区を設置して、植生調査を実施しその結果をまとめたものである。

今回の調査で認められた群落は、海浜草本群落としてハマニガナ、クロイワザサ、グンバイヒルガオ、ジシバリ、ツキイグ、ハマゴウの6群落、岩礁海岸植物群落とし

てイソフサギ、ウコンイソマツ、コウライシバ、タイワンカモノハシ、クサトベラ、キダチハマグルマ、オオハマボウ、アダンの8群落、内陸部の高木群落としてモクマオウ、リュウキュウマツ、ツゲモドキの3群落の合計17群落が識別できた。

I 調査地の概況

瀬底島は、図-1及び図-2に示すように周囲約8km、最高所が71.5mの海崖が発達した台地状の島である。南北が約2.4km、

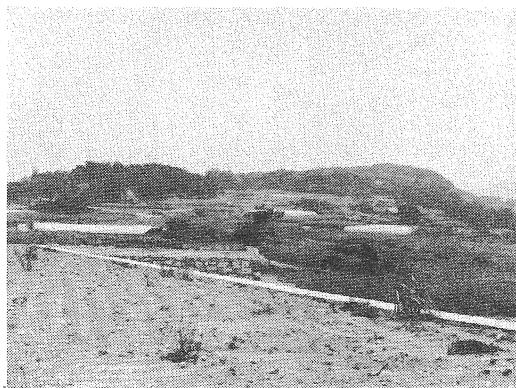


図1. 瀬底島の最高所（海拔71.5m）

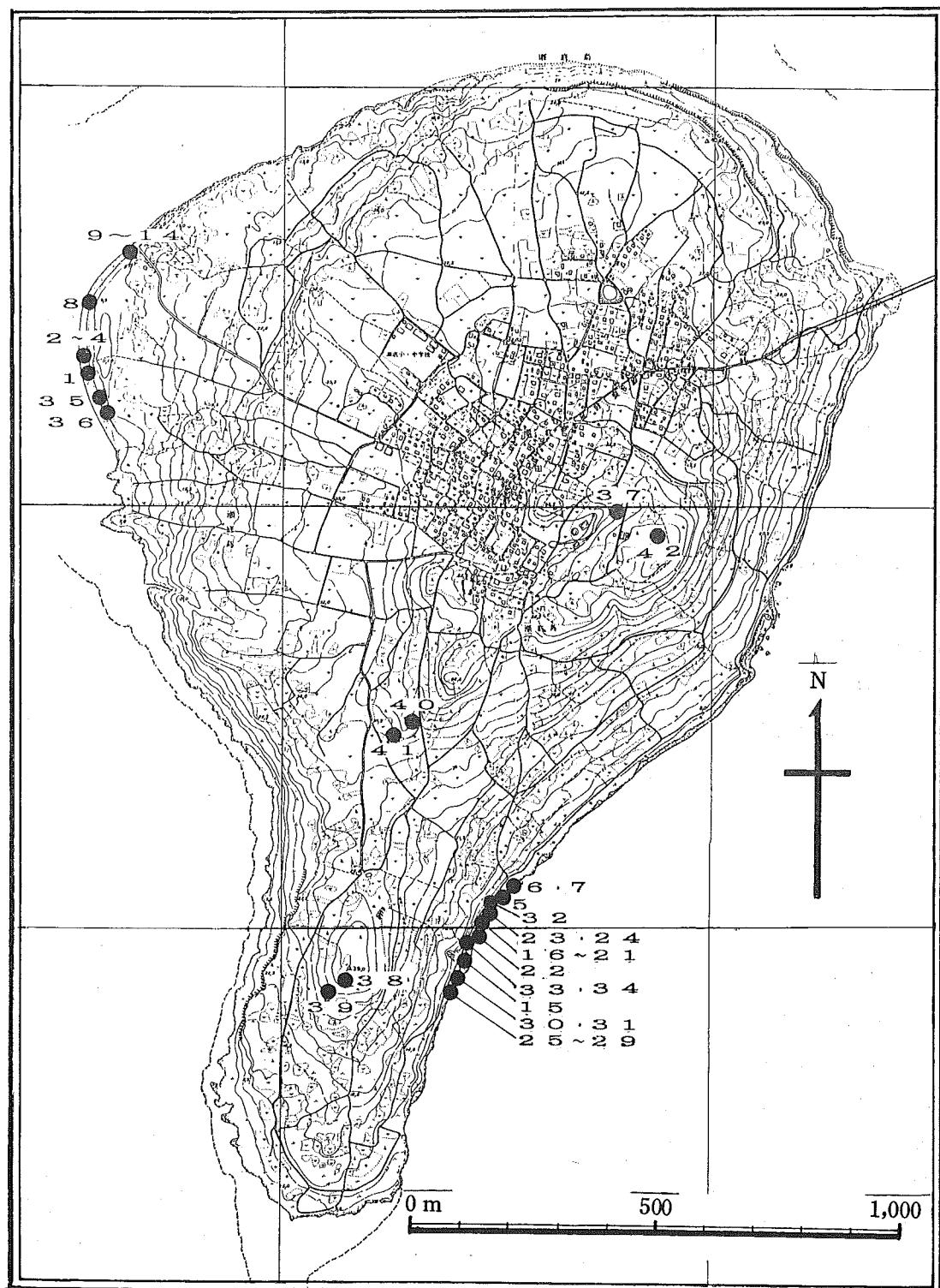


図2. 濱底島の地形（丸印・調査地点、数字・調査番号）。

東西が約1.9Kmあり、南北に長く幅の広い部分が北に偏った洋梨形をしている。集落は島の中心部に発達している。島は、ほぼ全域が新生代第四紀に堆積した琉球石灰岩に覆われ、植生も沖縄島の石灰岩地域に発達するリュウキュウガキーナガミボチョウジ群団に属する植生になっている。地形は2～3段の段丘からなり、5～10mの海崖が発達している。比較的規模の大きい海岸砂丘が西海岸のクンリ浜付近で、発達している。

砂浜の海岸植生はクンリ浜で調査をした。クンリ浜では、海水の機械的作用を大きく受ける波うちぎわから、その影響の少なくなって行く内陸にかけて植生が帶状に変化して行くのが観察された。すなわち、海に一番近いところにハマニガナ群落、次いでジシバリ、クロイワザサ、グンバイヒルガオ、ツキイゲ、ハマゴウの各群落が発達する。そして、その後方にはクサトベラ、アダン群落と続き海岸林へと変化していく。

岩礁海岸の植生については、同島の南東の海岸のトールマイ浜で発達している。同地域でも、やはり、海からの距離によって植生が帶状に変化している。すなわち、岩礁上の常時海水の飛沫をかぶる部分は無植生になり、その後方からイソフサギ、ウコンイソマツ、コウライシバ、タイワンカモノハシ、クサトベラ、オオハマボウ、アダン群落へと変化していく。

海岸段丘地形の標高30m～50mにかけて、民家とそれを取り巻くようにサトウキビや他の畑が点在する。民家の防風林として主なものを上げると、フクギ、イスノキ、

オオハマボウ、ゲッキツ、マサキ、ガジュマル、ヤブニッケイ、オオムラサキシキブ、センダン、ハマビワ、ツルグミ、クスノハガシワ、クスノハカエデ、クワノハエノキ、カンヒザクラなどがある。その他の地域は、ススキ、モクマオウ、リュウキュウマツなどの代償植生の群落が広い面積を占めている。同島の自然林は、人為的攪乱の少ないグスクや御嶽を中心にツゲモドキ群落が発達している。この群落は、イタジイだけが特に優占する非石灰岩地域のイタジイ群落と異なり、多くの種が優占する。

II 調査方法

瀬底島全域を踏査し、同島で識別された植物群落の中で可能な限り均質な林分を選び、最小面積と思われる面積以上の調査区を設置して調査した。具体的な調査の方法は、1988年度沖縄県立博物館紀要の「那覇市小禄金城公園（予定地）の植物」と同様であるので、ここでは省略する。

III 調査結果

1. 海浜草本植物群落

(1) ハマニガナ群落

ハマニガナ群落は、同島西にあるクンリ浜で調査した群落である。クンリ浜は、後方に発達した砂丘をもつ砂浜海岸である。この群落は、砂丘の前面に広がる砂浜の、一番海に近いところに発達する丈の低い群落で、波の機械的作用を受けやすいところ

に立地している（図3参照）。この群落には、下表のようにハマニガナ、ソコベニヒルガオ、ハマボウフウの3種が出現し、ハマニガナが最も優占する。

ハマニガナ群落

調査区番号	1
調査年月日	1988.3.14
海抜	2m
傾斜角度	0°
草本層高さ	0.1m
草本層植被率	40%
草本層	
ハマニガナ	2.2
ソコベニヒルガオ	+.2
ハマボウフウ	+

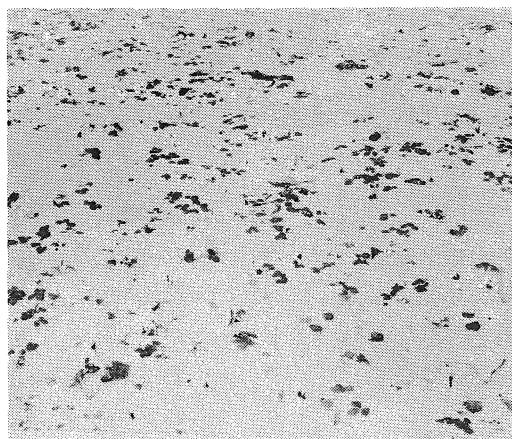


図3. ハマニガナ群落

(2) クロイワザサ群落

クロイワザサ群落もクンリ浜で識別された群落で、ハマニガナ群落の後方で発達している。この群落はクロイワザサ-ハマゴウ群集に属するが、ハマゴウを欠いている。

3つの調査区を設け調査した。クロイワザサが最も優占し、ホソバワダン、スナズル、クサトベラ、タチアワユキセンダングサ、コウボウシバなどの出現頻度が高い。

クロイワザサ群落

調査区番号	2	3	4
調査年月日	1988.3.14		
海抜(m)	3		
傾斜方位(度)		N50W	
傾斜角度(度)	20		
調査面積(m ²)	4		
草本層高さ(m)	0.25		
草本層植被率(%)	60		
出現種数	12	13	11
草本層			
クロイワザサ	3.3	3.3	3.3
ホソバワダン	1.2	+	2.3
シマアザミ	+.2	+	2.3
クサトベラ	1.2	1.2	1.1
スナズル	+.2	1.2	+.2
タチアワユキセンダングサ	+.2	+	+
コウボウシバ	+.2	+	+
ツキイゲ	1.1	+	
クソエンドウ	+.2	+	
リュウゼツラン	+	+.2	
ハマボッス	+	+	
ハマダイコン	1.1		+
ハマボウフウ		+	+
ソコベニヒルガオ	+	+.2	
ハマダイゲキ		+	

(3) グンバイヒルガオ群落

グンバイヒルガオ群落は、島の南東に位置するトールマイ浜の砂浜で発達し、ハマアズキ-グンバイヒルガオ群集に属する群落である。本群落には、下表に示すように4種出現し、グンバイヒルガオが最も優占し、ハイキビ、アダン、ジンバリなどが出現在する。

グンバイヒルガオ群落

調査区番号	5
調査年月日	1988.2.22
海抜	2m.
傾斜角度	5°
草本層高さ	0.4m
草本層植被率	40%

草本層

グンバイヒルガオ	5.5
ハイキビ	1.2
アダン	1.2
ジシバリ	1.2

(4) ジシバリ群落

ジシバリ群落は、トールマイ浜のグンバイヒルガオ群落より海側に見られた群落で、ハマニガナ群落について波の機械的作用が強い立地に発達する群落である。出現種は4種で、ジシバリが優占し、グンバイヒルガオ、ハイキビ、ギシギシなどが出現する。

ジシバリ群落

調査区番号	6	7
調査年月日	1988.2.22	
海抜(m)	2	
傾斜方位(度)	E	
傾斜角度(度)	5	
調査面積(m ²)	4	
草本層高さ(m)	0.4	
草本層植被率(%)	80	
出現種数	3	4
草本層		
ジシバリ	5.5	5.5
グンバイヒルガオ	1.2	2.2
ハイキビ	+	+.2
ギシギシ		1.2

(5) ツキイゲ群落

ツキイゲ群落は、クンリ浜の砂浜で認められた。波打ち際から離れた比較的高い位置に立地する。11種が出現し、優占種はツキイゲであった。その他にホソバワダン、クロイワザサ、ハマダイコン、シマアザミ、タチアワユキセンダングサなどが出現する。



図4. ツキイゲ群落

ツキイゲ群落

調査区番号	8
調査年月日	1988.3.14.
海抜	5m
傾斜方向	W.
傾斜角度	5°
調査面積	4m ²
草本層高さ	0.4m
草本層植被率	60%
草本層	
ツキイゲ	3.3
ホソバワダン	2.3
クロイワザサ	2.2
ハマダイコン	1.2
シマアザミ	1.2
タチアワユキセンダングサ	1.2
ハマダイゲキ	+.2
オトコヨモギ	+.2
ハマヒルガオ	+
ジシバリ	+
ハマボウフウ	+

(6) ハマゴウ群落

ハマゴウ群落は、クンリ浜の観光のための施設近くで調査した。本群落には11種が出現し、ハマゴウの被度・群度が3.3~5.5と高く優占する。また、ゲンバイヒルガオ、クロイワザサ、タチアワユキセンダングサの出現頻度も高い。琉球列島の砂浜に分布するハマゴウ群落は、ハマゴウ、クロイワザサを群集標徴種および区分種として、クロイワザサー・ハマゴウ群集としてまとめられ、クロイワザサー・ハマゴウ群団に属している。

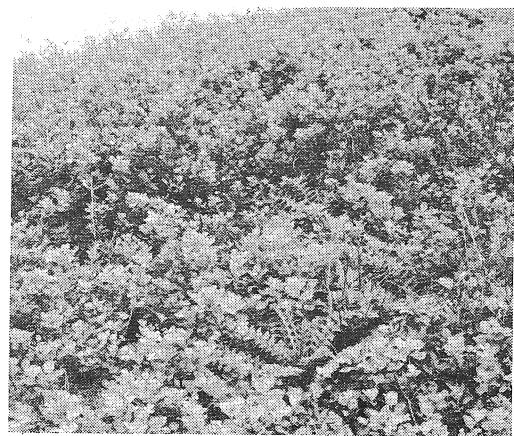


図5. ハマゴウ群落

ハマゴウ群落

調査区番号	9	10	11	12	13	14
調査年月日(1988年)				3.14		
海抜(m)				3		
傾斜方位(度)				N 60 W		
傾斜角度(度)				10		
調査面積(m ²)				4		
草本層高さ(m)				0.4		
草本層植被率(%)	60	70	50	80	60	60
出現種数	6	6	5	4	4	7
草本層						
ハマゴウ	4.4	4.4	3.4	5.5	4.4	4.4
ダンバイヒルガオ	2.2	2.2	2.2	2.2	2.3	+
タチアワユキセンダングサ	+2	1.2	+	1.2	+2	+
クロイワザサ	+2	+2	1.2	+		+2
シマアザミ	1.1	1.1				+
ギシギシ	+					
ハマオモト			1.2			
スナズル				+.2		
タチハマグルマ					+	
クソエンドウ						+
コバノヨツバムグラ						+

2. 岩礁海岸植物群落

(1) イソフサギ群落

イソフキギ群落は、トールマイ浜の隆起石灰岩の岩礁上の、一番海側で発達している群落である。本群落は、隆起石灰岩からなる高さ3mのノッチ上にあり、波が高いときには飛沫がかかり、無植生になっている飛沫帯の後方の立地に発達する。そこは吹きさらしで、直射日光が当たり、土壤もほとんどなくごつごつした岩礁上である。植物が生育するうえで厳しい環境であるために、突出した岩陰に隠れるようにイソフサギだけが出現する。

イソフサギ群落

調査区番号	15
調査年月日	1988.2.22
海抜(m)	傾斜方向 0.
傾斜角度 0	調査面積 0.025 m ²
草本層高さ	0.01m
草本層植被率	60%

草本層	
イソフサギ	3.3

(2) ウコンイソマツ群落

ウコンイソマツ群落は、イソフサギ群落の後背に発達する木本の群落である。6つの調査区で4種が出現し、ウコンイソマツが優占する。本群落は、モクビヤッコウ-ウコンイソマツ群集に属するがモクビヤッコウを欠いている。

ウコンイソマツ群落

調査区番号	16	17	18	19	20	21
調査年月日(1988年)				2.22		
海抜(m)				3		
傾斜方位(度)				E		
傾斜角度(度)				80		
調査面積(m ²)				1		
草本層高さ(m)				0.15		
草本層植被率(%)	40	20	40	60	50	40
出現種数	1	1	1	3	2	1
草本層						
ウコンイソマツ	3.3	2.3	3.3	3.3	3.3	3.3
ゲンバイヒルガオ				1.1		
タイワンカモノハシ				+		
イワダイゲキ					+	

(3) コウラシバ群落

コウライシバ群落は、ウコンイソマツ群落の後方に発達している。本群落は、ソナレムグラーコウライシバ群集に属し、緩やかな傾斜の礁原上に発達する。本群落が成立している場所の土壤は、ウコンイソマツ群落と比較すると多いけれども、群落の規模は小さい。

コウライシバ群落

調査区番号	22
調査年月日	1988.2.22
海抜	3 m.
傾斜角度	3.
草本層高さ	0.15 m
草本層植被率	50 %

草本層

コウライシバ	3.3
ホソバワダン	1.2
テッポウユリ	1.2
ハマゴウ	+
コゴメミズ	+
ソナレムグラ	+

(4) タイワンカモノハシ群落

タイワンカモノハシ群落は、コウライシバ群落の後背のやや土壤の発達した立地に生育する多年生草本群落である。6種出現するが、タイワンカモノハシが優占する。

タイワンカモノハシ群落

調査区番号	23	24
調査年月日(1988年)	2.22	
海抜(m)	2	2
傾斜方位(度)	0	0
傾斜角度(度)	0	0

調査面積(m ²)	1	1
草本層高さ(m)	0.20	
草本層植被率(%)	40	70
出現種数	4	4

草本層		
タイワンカモノハシ	4.4	4.4
コゴメミズ	1.2	+.2
コメッツブウマゴヤシ	+.2	
ウコンイソマツ	+	
ソテツ		+
ソナレムグラ		+

(5) クサトベラ群落

クサトベラ群落は、琉球列島においては砂浜でも岩礁海岸でも発達する。本群落はアダン群落やオオハマボウ群落と、コウライシバ群落などの草本群落の間に発達する木本群落である。一般的にいって、岩礁海岸で成林する群落の方が出現種数が多く、木本類の出現頻度も高い。

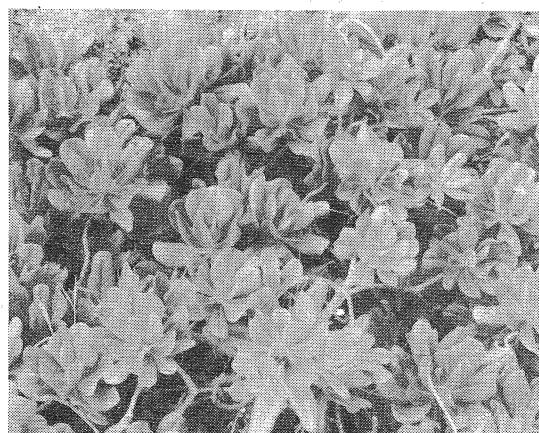


図6. クサトベラ群落

クサトベラ群落

調査区番号	25	26	27	28	29
調査年月日（1988年）			2.22		
海抜（m）	3	3	4	4	4
傾斜方位（度）	E	E	E	E	E
傾斜角度（度）	5	3	3	3	3
調査面積（m ² ）	4	4	4	4	4
草本層高さ（m）	0.4	0.5	0.4	0.4	0.4
草本層植被率（%）	70	70	90	80	80
出現種数	7	10	5	7	8
草本層					
クサトベラ	4.4	4.4	5.5	5.5	5.5
ハリツルマサキ	2.2	2.2	+2	+	+
オオハマボウ	+		3.3	1.2	1.2
タイワンカモノハシ	+2	+		+	+
テッポウユリ		+2		1.2	+
クソエンドウ			1.2	+	+2
ナンゴククサスギカズラ	+2	+			
ハマボッス	+	+			
ハマササゲ				2.2	+
ソナレムグラ	+				
キダチハマグルマ			1.2		
シャリンバイ			1.2		
ノビル			+		
ヒゲスゲ			+		
ギシギシ					1.1
ハマゴウ					+

(6) キダチハマグルマ群落

キダチハマグルマ群落は、主に海岸やその周辺地において、自然植生が破壊された後の代償植生として発達する群落である。本群落はトールマイ浜の岩礁海岸の礁原上の、以前クサトベラ群落であったと思われる部分に発達し、その構成種が多数出現する。

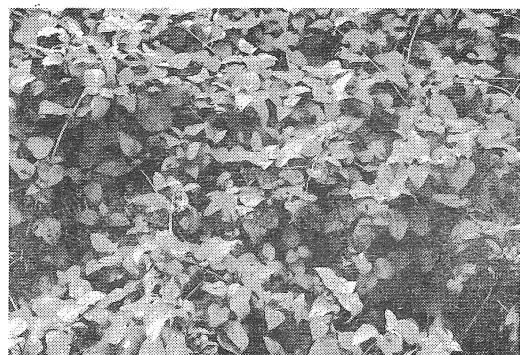


図7. キダチハマグルマ群落

キダチハマグルマ群落

調査区番号	30	31
調査年月日(1988年)	2.22	
海抜(m)	4	4
傾斜方位(度)	E	E
傾斜角度(度)	5	10
調査面積(m ²)	4	4
低木層高さ(m)	1	1
低木層植被率(%)	90	80
草本層高さ(m)	0.3	0.3
草本層植被率(%)	5	3
出現種数	14	12

低木層

キダチハマグルマ	5.5	5.5
オオハマボウ	+	1.2
ススキ	+	1.2
ギンネム	+	+
シャリンバイ	+	
ハマサルトリイバラ	+	
クロミノオキナワスズメウリ	+	
シマアザミ	+	
草本層		
キダチハマグルマ	+	+.2
オオハマボウ	+	+
テッポウユリ	+	+
シマアザミ	+	
シャリンバイ	+	
ヒメクマヤナギ	+	
ハリツルマサキ	+	
ススキ	+	
ギンネム		1.2
ハマボッス	+	
ムラサキカタバミ	+	

(7) オオハマボウ群落

オオハマボウ群落は内陸部にも見られるが、通常、海岸植生ではアダン群落の前面に成林する木本の群落である。本群落は、無植生の砂浜をひかえた高さ3m程の海崖に発達している。

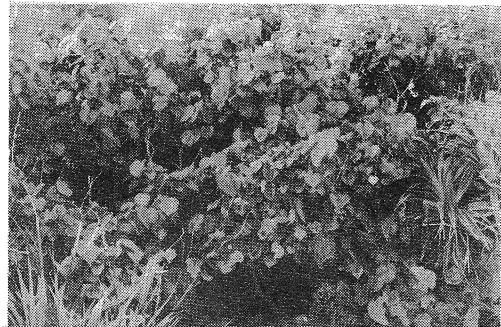


図8. オオハマボウ群落

オオハマボウ群落

調査区番号	32
調査年月日	1988.2.22
海抜 3 m.	傾斜方向 E.
傾斜角度 3.	調査面積 25 m ²
亜高木層高さ	4 m
亜高木層植被率	80 %
低木層高さ	1 m
低木層植被率	5 %
草本層高さ	0.15 m
草本層植被率	50 %

亜高木層

オオハマボウ	5.5
ヘクソカズラ	+

低木層

ソテツ	1.1
イボタクサギ	1.2
ノアサガオ	+

草本層

ヘクソカズラ	1.1
クロミノオキナワスズメウリ	+.2
ソテツ	+.2
オオハマボウ	+.2
センダン	+
サツマイモ	+

(3) アダン群落

アダン群落は、琉球列島の砂浜海岸および岩礁海岸をとわず海岸林の前面に発達している。本地域の群落は、オオハマボウ群落の後方にあり、出現種数が少なく、上層がアダン一種で覆われ、林床はあまり発達していないというアダン群落の特徴をよく示している。



図9. アダン群落

アダン群落

調査区番号	33	34
調査年月日(1988年)	2.22	
海抜(m)	5	5
傾斜方位(度)	E	E
傾斜角度(度)	10	15
調査面積(m ²)	25	25
亜高木層高さ(m)	5	5
亜高木層植被率(%)	40	60
低木層高さ(m)	1.5	1.5
低木層植被率(%)	30	30
草本層高さ(m)	0.4	0.5
草本層植被率(%)	5	5
出現種数	12	10

亜高木層		
アダン	3.3	4.4
低木層		
アダン	3.3	3.3
ソテツ	1.1	
イボタクサギ		2.2
草本層		
アダン	+2	+2
テッポウユリ	+	+
ツルナ	+	
シマアザミ	+	
ハルノノゲシ	+	
シャリンバイ	+	
センダン	+	
クロミノオキナワスズメウリ	+	
グッキツ	+	
ギンネム		+
ヘクソカズラ		+
ハマウド		+
クソエンドウ		+
カラスノエンドウ		+

3. 高木群落

(1) モクマオウ群落

モクマオウ群落はとくに戦後、防風や緑化の為に植栽された代償植生である。本群



図10. 砂丘上のモクマオウ群落
手前はアダン群落

落は、クシリ浜のアダン群落の後方の砂丘上に植栽された高さ12m～13mの高木群落である。

モクマオウ群落

調査区番号	35	36
調査年月日(1988年)	3.14	
海抜(m)	38	8
傾斜方位(度)	0	N80E
傾斜角度(度)	0	5
調査面積(m ²)	400	400
高木層高さ(m)	12	13
高木層植被率(%)	50	30
亜高木層高さ(m)	5	7
亜高木層植被率(%)	20	10
低木層高さ(m)	1.5	2
低木層植被率(%)	30	20
草本層高さ(m)	0.7	0.8
草本層植被率(%)	50	50
出現種数	42	36

高木層				
モクマオウ	4.4	3.3		
亜高木層				
モクマオウ	1.2	+·2		
パパイヤ	2.3			
テリハボク	1.1	1.1		
クロミノオキナワスズメウリ	+	+·2		
オキナワイボタ	+			
低木層				
クロミノオキナワスズメウリ	1.2	+		
アダン	1.1	+		
シマグワ	+·2	1.2		
トウズルモドキ	+·2	+·2		
オオシマコバンノキ	+	+		
パパイヤ	2.3			
ゲッキツ	1.2			
リュウキュウガキ	1.1			
オキナワイボタ	+·2			
リュウキュウボタンズル	+			
アカテツ			1.2	
テリハボク			1.2	
ノアサガオ			+·2	
モクマオウ			+	
センダン			+	
シャリンバイ			+	
トベラ			+	
草本層				
ショウジョウソウ		3.4	4.4	
タチアワユキセンダングサ		1.2	2.3	
クロミノオキナワスズメウリ		1.2	1.2	
エダウチチヂミザサ		+·2	1.2	
パパイヤ		+·2	1.2	
クロイワザサ		+·2	+·2	
ノアサガオ		+·2	+·2	
ゲッキツ		+·2	+·2	
アカテツ		+·2	+·2	
ハルノノゲシ		+	+	
シャリンバイ		+	+	
ハマボッス		+	+	
テッポウユリ		+	+	
ハマダイコン		+·2		
オキナワイボタ		+·2		
イボタクサギ		+·2		
ハマオモト		+·2		
ベニバナボロギク		+		
センダン		+		
ツゲモドキ		+		
アダン		+		
ヤエヤマアオキ		+		
メヒシバ		+		
ツルムラサキ		+		
ツクシメナモミ		+		
ツルナ		+		
シマアザミ			1.2	
シマグワ			+·2	
トウズルモドキ			+·2	
ヒゲスゲ			+	
ソクズ			+	
ブッソウゲ			+	
ツルモウリンカ			+	

(2) リュウキュウマツ群落

リュウキュウマツ群落は、同島の南の高地原と喜名波原の境にある海拔39.0mの岡周辺に広く発達している。自然林の伐採後に植栽され代償植生で、かなり年数がたっているものである。

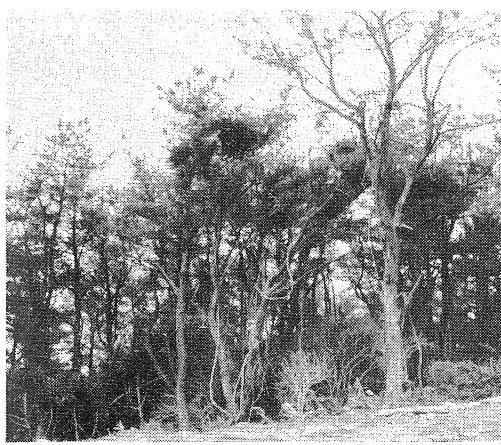


図11. リュウキュウマツ群落

リュウキュウマツ群落

調査区番号	37	38	39
調査年月日(1988年)	3.7	3.7	2.22
海抜(m)	39	39	55
傾斜方位(度)	S20W	S20W	S20W
傾斜角度(度)	10	10	10
調査面積(m ²)	225	225	225
高木層高さ(m)	14	13	13
高木層植被率(%)	60	70	50
亜高木層高さ(m)	7	7	10
亜高木層植被率(%)	40	30	70
低木層高さ(m)	1.5	2	3
低木層植被率(%)	40	440	40
草本層高さ(m)	0.7	1	0
草本層植被率(%)	70	70	40
出現種数	50	41	59

高木層	4.4	4.4	3.3
モクマオウ	+.2	+.2	
サルカケミカン	+.2	+.2	
シラタマカズラ			
モクマオウ		2.2	
リュウキュウマノスズクサ		+.2	
ノブドウ		+	
ウジルカンダ			1.2
カラスキバサンキライ			1.2
オオイタビ			+
亜高木層			
ハゼノキ	+.2	+.2	3.3
ゲッキツ	+	1.2	1.2
アダン	2.3	2.3	
シマグワ	2.2	1.2	
シャリンバイ	1.2	1.2	
タブノキ	1.1		1.1
オオイタビ		+.2	+.2
ハマイヌビワ			
エゴノキ		1.1	
ガジュマル		1.1	
クチナシ	+.2		
サルカケミカン	+.2		
ハマイヌビワ			2.2
トベラ			+
イスノキ			2.2
クロツグ			2.2
ホソバムクイヌビワ			2.2
ホルトノキ			1.2
クロキ			1.2
サンゴジュ			1.2
シマタゴ			1.2
ショウベンノキ			1.1
フクギ			1.1
ツルグミ			+.2
リュウキュウマノスズクサ			+
リュウキュウハリギリ			+
トウズルモドキ			+
サクララン			+
クスノハカエデ			+
低木層			
クチナシ	1.2	+	1.2
イヌビワ	1.2	+.2	+
カニクサ	+.2	+.2	+.2
フクマンギ	+	+.2	+.2
ソテツ	2.3	2.3	

ゲットウ	+·2	1·2	ハリツルマサキ	+·2	+
リュウキュウウマノスズクサ	+·2	1·2	クロミノオキナワスズメウリ	+·2	+
オオイタビ	+·2	+·2	オキナワサルトリイバラ	+	+
ゲッキツ	1·2	1·2	ナガミボチョウジ	+·2	1·2
クスノハガシワ	+·2	+·2	オオイタビ	+·2	+·2
ヤブニッケイ	+·2	1·2	ツゲモドキ	+	+·2
トベラ	+·2	+	ハマビワ	+	+·2
シラタマカズラ		+·2	タイワンアキグミ	+	+
ガジュマル	+·2		シラタマカズラ	+	+
サルカケミカン	+·2		オキナワイボタ	+	+
ススキ	+		ヤブニッケイ	+·2	
ヘクソカズラ	+		ハゼノキ	+·2	
ハゼノキ		+·2	フウトウカズラ	+·2	
シイクワシャー		+	バケイスグ	+	
カラムシ		+	エゴノキ	+	
ホソバムクイヌビワ		2·3	ソテツ	2·3	
モクタチバナ		1·2	ススキ	1·2	
タブノキ		1·2	イヌビワ	+·2	
ホウロクイチゴ		+·2	シイクワシャー	+·2	
サクララン		+·2	クワノハエノキ	+	
フクギ		+·2	ヘクソカズラ	+	
クスノハカエデ		+·2	センダン	+	
クロキ		+·2	ヤブニッケイ	+	
ナガミボチョウジ		+·2	ツルモウリンカ	+	
トウズルモドキ		+·2	オオシマコバンノキ	+	
シャリンバイ		+·2	リュウキュウボタンズル	+	
カラスキバサンキライ		+·2	モクタチバナ	1·2	
アダン		+	フクギ	1·2	
リュウキュウガキ		+	ホソバムクイヌビワ	+·2	
シマグワ		+	リュウキュウガキ	+·2	
リュウキュウクロウメモドキ		+	マサキ	+·2	
コクテンギ		+	シロダモ	+·2	
ウジルカンダ		+	ツワブキ	+·2	
ハマビワ		+	サクララン	+·2	
ネズミモチ		+	ノシラン	+·2	
草本層					
カニクサ	3·3	3·3	+·2	シマヤマヒハツ	+
ホシダ	1·2	1·2	+·2	ショウベンノキ	+
ゲッキツ	1·2	+·2	1·2	コシダ	+
ヒメクマヤナギ	+	+	+·2	ホウビカンジュ	+
タマシダ	3·3	1·2		オオバイヌビワ	+
ホウロクイチゴ	1·2	1·2		ハマイヌビワ	+
テッポウユリ	+·2	1·2		トウズルモドキ	+
シャリンバイ	+·2	+·2		シマグワ	+
リュウキュウウマノスズクサ	+·2	+·2		クワズイモ	+
				エダウチヂヂミザサ	+

(3) ツゲモドキ群落

ツゲモドキ群落は、琉球列島の石灰岩地域の自然林のリュウキュウガキーナガミボチョウジ群団に属し、瀬底島の内陸部における潜在自然植生に一番近い林分である。調査は同島の宜志源原にあるメヌウタキと、大嶺原にある同島の最高所（海拔71.5mの地点）で調査区を設置して調査した。

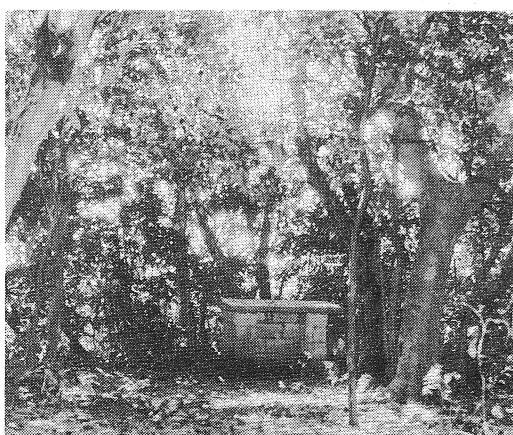


図12. メヌウタキのツゲモドキ群落

参考文献

- 初島住彦、1975、琉球植物誌 追加・訂正版 沖縄生物教育研究会、沖縄。
- 初島住彦・天野鉄夫、1977、琉球植物目録、でいご出版社、沖縄。
- 日越国昭・新城和治、1987、那覇市小禄金城俗称「上の毛」の植物、沖縄県立博物館紀要、第13号。
- 新城和治・日越国昭、1988、那覇市小禄金城公園（予定地）の植物、沖縄県立博物館紀要、第14号。

ツゲモドキ群落

調査区番号	40	41	42
調査年月日(1988年)	3.7	3.15	3.14
海抜(m)	0	40	71.5
傾斜方位(度)	10E	N10E	0
傾斜角度(度)	5	5	0
調査面積(m ²)	225	225	225
高木層高さ(m)	8	8	10
高木層植被率(%)	90	90	90
亜高木層高さ(m)	5	6	6
亜高木層植被率(%)	50	50	40
低木層高さ(m)	1.5	1.5	1.5
低木層植被率(%)	60	30	40
草本層高さ(m)	00.8	0.6	0.5
草本層植被率(%)	60	50	40
出現種数	37	33	35
高木層			
ツゲモドキ	2.2	3.3	1.2
クスノハカエデ	2.3	2.2	1.2
クロヨナ	2.2	2.2	1.1
アコウ	1.1	1.1	2.3
ノアサガオ	1.1	+2	1.2
ハゼノキ	3.3	2.2	
タイワンウオクサギ	1.1	1.1	
センダン	+	1.1	
オキナワイボタ	1.2		
ハマイヌビワ	1.2		
リュウキュウマツ	1.1		
リュウキュウクロウメモドキ	+		
オオシマコバンノキ	+		
クチナシ		1.2	
モクマオウ		1.1	
テリハツルウメモドキ		+2	
ハマイヌビワ			3.3
クスノハガシワ			2.3
ソウシジュ			2.2
ヤブニッケイ			2.2
クワノハエノキ			1.2
トウズルモドキ			1.2
リュウキュウマノスズクサ			+2
フウトウカズラ			+2
オオバギ			+

亜高木層

リュウキュウガキ
クスノハカエデ
ゲッキツ
クチナシ
カラスキバサンキライ
クスノハガシワ
モクタチバナ
クロヨナ
タイワンクズ
テリハツルウメモドキ
オキナワイボタ
シャリンバイ
リュウキュウティカカズラ
ノアサガオ
タイワンウオクサギ
トベラ
クロツグ
サクララン
ハマイヌビワ
トウズルモドキ
ギョボク
オオハマボウ
クロミノオキナワスズメウリ

低木層

リュウキュウガキ
シマヤマヒハツ
ノアサガオ
グミモドキ
クロツグ
リュウキュウティカカズラ
カラスキバサンキライ
クロミノオキナワスズメウリ
シマグワ
トウズルモドキ
ヘクソカズラ
ゲッキツ
テリハツルウメモドキ
ハマビワ
サクララン
ヘクソカズラ
アカテツ
クチナシ
クスノハガシワ
モクタチバナ

2・3	3・3	1・2	トベラ	+
1・2	1・2	1・2	フウトウカズラ	1・2
+	1・2	1・2	ハマイヌビワ	1・2
1・2	1・2		フクギ	+
+・2	+・2		オキナワイボタ	+
			草本層	
	+	2・3	グミモドキ	2・3 2・3 +・2
1・2		1・2	ノシラン	2・3 +・2 +
2・3			ゲッキツ	1・2 1・2 1・2
1・2			シマヤマヒハツ	1・2 1・2 +・2
1・2			オオシマコバンノキ	1・2 1・2
1・2			クスノハカエデ	1・2 1・2
+・2			リュウキュウティカカズラ	1・2 1・2
+・2			クロツグ	1・2 1・2
+・2			クロミノオキナワスズメウリ	1・2 +・2
+・2			ナガミボチョウウジ	1・2 +・2
	+		クロヨナ	+・2 1・2
	+・2		ヘクソカズラ	+・2 +・2
	+		トベラ	+・2 +・2
		2・2	センダン	+・2 +・2
		1・2	リュウキュウクロウメモドキ	+
		1・1	ノアサガオ	+・2 2・3
		1・1	カラスキバサンキライ	+・2 1・2
		+・2	エダウチチヂミザサ	+・2 +・2
			オキナワイボタ	2・3 +
2・2	1・2	2・2	クワノハエノキ	+・2 +
2・3	1・2	+・2	タイワンクズ	1・2
1・2	+・2	1・2	クチナシ	+・2
3・3	1・2		ツゲモドキ	+・2
1・2	1・2		サクララン	+・2
1・2	+・2		オオムラサキシキブ	+
+・2	1・2		コクテンギ	+
1・2		+	シャリンバイ	+
1・2		+・2	カニクサ	+
+・2		1・2	フウトウカズラ	3・4
+・2		+	チシャノキ	+・2
2・3			リュウキュウガキ	+・2
1・2			ヤブニッケイ	+・2
+・2			クワズイモ	+・2
+			モクタチバナ	+
+			オニヤブソテツ	+
1・2			オオバギ	+